

回折構造生物 169 委員会委員の皆様へ

回折構造生物 169 委員会副委員長の山根です。第 124 運営委員会で ISDSB2013 の実行委員長に推薦いただき、このたびのアンケートで ISDSB2013 の実行委員長としてご承認いただきありがとうございます。

皆様ご存知のように回折構造生物学というキーワードは当 169 委員会が提唱し、X線、中性子、電子線を用い、主に回折手法による構造生物学研究の重要性を世界に示してまいりました。その端緒が 2003 年に筑波で当 169 委員会の主催により開催された International Symposium on Diffraction Structural Biology 2003(ISDSB2003、実行委員長 神谷信夫委員)でしたが、国内外の研究者から「多様な手法・方法論を包括した小規模な国際シンポジウムであるが、これまでにないシンポジウムでありぜひ継続してほしい」との要望が出されました。これを受け、169 委員会として「X線、中性子、電子線に関する構造生物」という基本原則に立った国際シンポジウム、ISDSB2007(東京、実行委員長 山根隆委員)、ISDSB2010 (Paris, Steering Committee R. Furme)主催してきました。ISDSB2010 の Steering Committee から 169 委員会の安岡則武委員 (ISDSB2010 国内委員会委員長) と山根に次回は 2013 年に日本で開催していただきたいとの要望が出され、169 委員会の運営委員会で検討が進められました。

169 委員会におきましては、回折構造生物国際シンポジウムは非常に大きな意味を持っていると思います。これまでのシンポジウムで、急速に発展している分野の最前線を認識したり、小角散乱、X 線トモグラフィーといった多様な手法を駆使して何としてもタンパク質の構造を決めようという世界の潮流を感じることができました。この度、実行委員長経験者ということで、私が ISDSB2013 の実行委員長を勤めさせていただきますが、このシンポジウムの意義を考えますと重責に身の縮む思いです。ISDSB2013 を開催するに当たりまして、169 委員会の委員の皆様へ、改めてご支援を賜りますようお願い申し上げます。また、準備にあたりご協力をお願いすることも多々あるかと思いますが、その節にもよろしくようお願い申し上げます。

山根 隆